

所 報

くしる



No.288

釧路教育研究所

平成30年 11月



釧路管内学校教育研究大会弟子屈大会を終えて

釧路教育研究所長 湊谷 美樹治

道東の地に秋の風情漂う10月2日、平成30年度の釧路管内学校教育研究大会弟子屈大会が、管内各町村から270名を超える教職員の皆様のご参加をいただき盛大に開催されました。

開会式には公務ご多用の中、弟子屈町副町長 吉備津民夫様、北海道教育庁釧路教育局長 鈴木淳様、釧路管内町村教育委員会連絡協議会長 国安修一様をはじめ、多くのご来賓の皆様にご臨席をいただきました。また、その後の研究協議では、参加された各部会の皆様の熱心な意見交流が交わされるとともに、釧路教育局義務教育指導班の皆様や各町教育委員会指導室長の皆様から貴重なご助言・ご示唆をいただくことができました。多くの方々のご理解とご支援に心から感謝を申し上げます。

現在、各教育研究所において、部会の在り方を検討している町村が数多くあります。10年前に比べ、学校数が約27%、教職員数が約36%も減っているという現実があるからです。その現実を直視し、大きな課題と捉え、弟子屈町教育研究所では昨年度、いち早く部会の見直しに着手し再編していただきました。

この度の学教研弟子屈大会では、「適切な目標設定・学習評価の充実」、「学びの質の向上」、「道徳」、「外国語・英語」、「特別支援教育」という5つの部会において、公開授業を実施していただきました。研究主題に基づく創意あふれる授業はもとより、部会構成の在り方自体が提案性に富んでおり、各町村教育研究所に多くの示唆を与えていただきました。授業を公開していただいた弟子屈町の先生方、そして養護・事務の両部会において職務の充実・改善に向けた実践的な提言をしてくださった発表者の皆様に心より感謝を申し上げます。本当にありがとうございます。

また、伊藤所長をはじめ、弟子屈町教育研究所の皆様、「学教研」の意義をしっかりと見据えられた取組、また、本研究大会を弟子屈町研の活動を更に充実・発展させる契機にしたいという強い思い、さらには部会の見直しを課題と捉えた先見性と再編された実行力に対し、心から敬意を表する次第です。

次年度開催予定の標茶大会に本研究大会の思いがつながり、この学教研が「これまでの実践を見直し、今後の授業改善に結びつく」研究大会として機能するよう、各町村教育研究所の知恵の結集と、更なる授業実践の積み上げを期待しております。

結びになりますが、本研究大会を支えていただきました北海道教育庁釧路教育局、弟子屈町教育委員会をはじめ各町村教育委員会、弟子屈町教育研究所の益々の発展と、本研究大会にご参加いただきました皆様のご活躍を祈念申し上げ、本研究大会終了のお礼とさせていただきます。

平成30年度釧路管内学校教育研究大会弟子屈大会 ～部会ごとの様子～



参加者の声から ～事後研のアンケートより一部紹介します～

<外国語部会>

- ・特に、子どもが抵抗なく活動に取り組んでいたことが印象に残った。テンポや子どもとのやり取りなど、参考にさせていただいた。
- ・小学校でどの程度学習してくるのか、もっと把握する必要があると感じた。今日の授業くらいできてくれると中学校では助かる。

<道徳教育部会>

- ・視点を変えて見ることは多角的な見方を育む上で有効だと勉強になった。
- ・流れ、生徒の気持ちを引き出す発問がよく練られていた。最後が授業者の悩みにもあったように主題に迫るといよりは「育てたい」生徒のこれからの姿への願いが強かったのかなと感じた。

<適切な目標設定・学習評価の充実部会>

- ・生徒が主体的に活動できるような意図やルーティーンが参考になった。
- ・子どもに、どう課題を持たせるか。方法としては学ぶものがとても多かった。

<学びの質の向上部会>

- ・チャレンジ精神のある素晴らしい授業だった。
- ・子ども目線での学びの質の向上のために、段階別の視点（評価観点）を見通し振り返りの場面で取り入れてあげるとより良くなると思われる。（子どもの目的意識から質の向上を）

<特別支援教育部会>

- ・毎日悩みながら指導していることが分かった。自分の励みになった。
- ・成果を月日を追って見ることができ、とても良かった。特性をプラスに捉えるなど、とても参考になった。

<養護部会>

- ・執務の参考になるレポートだった。

<事務部会>

- ・各町との交流ということで、色々比較できることが多いのでこの形が良いと思う。

学校教育研究大会弟子屈大会 提言内容

弟子屈町では、子供たちが学ぶ喜びを実感し、生涯にわたって学ぼうとする姿勢を身に付け、充実した人生を歩んでいけるよう、学校・家庭・地域社会が連携した取り組みを進めています。

そこで、弟子屈町教育研究所では、「自然豊かな大地の中で、生き生きと学ぶ 弟子屈っ子の育成」という研究主題を設定し、次の4点の充実を図ることを目指しています。

- ①各教科等における確かな学力を育む教育の充実
- ②豊かな人間性や社会性を育む心の教育の充実
- ③健康で安全な生活の基礎となる生活習慣の定着を図る教育の充実
- ④地域を生かし、ふるさとを愛する心を育む教育の充実

これらを具現化するための研究の視点は、以下のとおりです。

- ①目標と評価の一体化、主体的・対話的で深い学び、学習習慣の確立など
- ②道徳教育・道徳科の指導の充実、個に応じた指導・特別支援教育の充実など
- ③食育・保健指導の充実、家庭、地域、関係機関等との連携など
- ④地域の人的・物的資源の活用、社会教育との連携など

平成28年度までは、教科ごとに部会を構成していましたが、児童生徒数の減少に伴う教職員数の減少等の理由から、昨年度、部会構成の見直しを行いました。

外国語部会では、「楽しく学んで身に付く外国語・英語の授業の工夫」というテーマで、外国語・英語を使用する目的・場面・状況を意図的に設定した活動の工夫、小学校・中学校の活動の系統性を明らかにしたり、コミュニケーション活動、教科書本文の効果的な活用、小学校・中学校の系統性を意識した Can-Do List の設定などに取り組んでいます。

道徳教育部会では、「今後の自分の生き方について考えを深める子の育成」をテーマに、「考え、議論する授業へと授業改善を図ることで、今後の生き方を考えることができる児童生徒の育成につながるだろう」という研究仮説を設定し、授業研の実施を通して、有効な手立てについて検討しています。

適切な目標設定・学習評価の充実部会では、「目標・指導・評価の一体化を目指して」というテーマで、「児童生徒の実態に応じた具体的な目標を設定し、適切な評価を行っていくことで、確かな学力に結びつく授業改善を図ることができるであろう」という仮説を設定し、指導案交流を通して、目標設定と評価の在り方について協議したり、授業研を通して、目標・指導・評価の在り方について協議したりしています。

学びの質の向上部会では、「主体的・対話的で深い学びの確立」というテーマのもと、「見方・考え方ははたらかせる手立てを工夫することで、子供たちの学びの質が高まるであろう」という研究仮説を設定し、主体的に取り組める教材の活用や、家庭学習を活かした授業について検討しています。

特別支援教育部会では、「一人一人のよさや可能性を尊重し、生きる力を育む」というテーマのもと、「授業、情報交流を通して支援の手立て・充実を図ることで、児童生徒一人一人のよさや可能性が効果的に伸長され、生きる力を育むことにつながるだろう」という研究仮説を設定し、授業の様子を撮影して参観し、支援の在り方について協議したりしています。

特別支援教育部会では、「一人一人のよさや可能性を尊重し、生きる力を育む」というテーマのもと、「授業、情報交流を通して支援の手立て・充実を図ることで、児童生徒一人一人のよさや可能性が効果的に伸長され、生きる力を育むことにつながるだろう」という研究仮説を設定し、授業の様子を撮影して参観し、支援の在り方について協議したりしています。

事務部会では、「日常的な実践を交流し事務の効率化を図る」というテーマのもと、業務の効率化を図れるよう諸手続きにかかわる関係書類や参考資料、関係機関との連携、予算の配当と執行状況、学校備品の管理などについて交流しています。

学校教育研究大会弟子屈大会まとめ

台風24号の接近により、前日は多くの学校が臨時休業になるなど、さまざまな影響が心配されましたが、10月2日（火）、釧路管内より総勢279名の皆様に参加いただきまして、平成30年度釧路管内学校教育研究大会弟子屈大会を無事に終えることができました。公務ご多用の中、ご臨席くださいました、弟子屈町副町長 吉備津民夫様、北海道教育庁釧路教育局長 鈴木淳様、釧路管内町村教育委員会連絡協議会長 國安修一様をはじめ、ご来賓の皆様には、公開授業もご参観いただきまして、心より感謝申し上げます。

弟子屈町教育研究所では、平成28年度まで、教科ごとに部会を構成していましたが、児童生徒数の減少に伴う教職員数の減少等の理由から、昨年度、部会構成の見直しを行いました。

部会再編の視点①「今日的な教育課題への対応」として、外国語、道徳教育、特別支援教育部会は、引き続き設定することとしました。

部会再編の視点②「教職員の専門性の向上」を目的として、養護、事務部会も引き続き設定しています。

部会再編の視点③「学習指導要領等の枠組みの見直しにかかわる視点」をもとに、「何ができるようになるか」、「何を学ぶか」、「何が身に付いたか」という視点に対応する『適切な目標設定・学習評価の充実部会』、「どのように学ぶか」「実施するために何が必要か」という視点に対応する『学びの質の向上部会』を新設しました。

このような部会構成で動き出してからまだ1年半しか経っていないため、まだまだ課題は多くありますが、皆様からいただいたご指導、ご助言をもとに、今後も改善を図ってまいりたいと考えております。

最後になりましたが、弟子屈大会開催にあたり、釧路教育研究所の皆様には、事前打ち合わせ、準備、会場設営、運営等、全面的なご支援、ご協力を頂戴しました。また、ご指導、ご助言をいただきました釧路教育局、釧路管内町村教育委員会連絡協議会、各町村教育委員会、関係諸機関の皆様、そして、ご参加くださいました皆様に改めて心より感謝申し上げます。来年度の標茶大会のご盛会をご祈念申し上げまして、弟子屈大会のお礼の言葉とさせていただきます。

部会構成		新設	新設			
外国語	道徳教育	適切な目標設定・ 学習評価の充実	学びの質の向上	特別支援教育	養護	事務

事務局通信

■初雪の便りがいつになく遅いといわれています。雪が待ち遠しい人にとってはさみしい話だとは思いますが、私は除雪は好きではないので、このまま春になっても構わないとも思っています。人間誰もどこかで自分中心の考えが先行するのだろうと、これまた都合のよい考えに至り、人間としての未熟さを感じます。せめて口にしないでおこうかという歯止めだけは効いているのが幸いです。子ども達に正しいことを教え導くためには、教師も人間力を磨かなくてはならないと実感しています。

■2学期も残りわずかとなります。学級閉鎖や臨時休業も心配される時期となりますが、学習のまとめ・習熟の時期でもありますので、健康に留意してご活躍ください。（事務局）

★釧路教育研究所★ 所報288号

発行日：平成30年11月

発行所：釧路教育研究所

発行者：湊谷 美樹治

URL

<http://senken.net/>

E-mail

info@senken.net



アクセス用QRコード